

レクチャー：ショパンとソナタ形式

5月29日(土) 開場 10:30 開演 11:00 入場料 ¥3,000

講師：植田 克己 / Katsumi Ueda

ハイドンやモーツァルトから受け継いだソナタ形式の分野で、ベートーヴェンは多くのピアノソナタを中心に大改革を打ち出しました。それ以降、ソナタ形式と、その楽章を含むソナタをどのように扱うかは、どの作曲家にとっても大きな課題となりました。ショパンもその例外ではありません。

通常彼の作品は三部形式の楽曲などに、ピアノリズムの美しさが極く自然に表されるように感じられますが、その反面、二つの主題の相克と展開にも様々な発想を繰り広げました。私自身はバラードや幻想曲にも、ショパンがソナタ形式の精神を見事に昇華させていると考えます。その内容の一部について考察いたします。



■プロフィール／うえだ かつみ

札幌生まれ。1975年東京藝術大学同大学院音楽研究科修了。熊谷玲子、故伊達純、松浦豊明各氏に師事。在学中第38回日本音楽コンクール入選。73年クロイツァー賞を受賞。75年デトモルト北西ドイツ音楽アカデミーに留学、翌年からベルリン芸術大学でクラス・シルデ氏に師事。77年第17回ロン・ティボー国際音楽コンクール第2位大賞。78年イタリアのポジターノで、ウィルヘルム・ケンプ氏に師事。NHK交響楽団、東京都交響楽団など国内外の交響楽団との共演を行い、独奏はもとより室内楽奏者としても活躍している。現在東京藝術大学音楽学部長、日本ショパン協会理事。